

ナミビア北東部ブワブワタ国立公園における 生業活動と地形・植生の関係

平成 26 年入学
派遣先国：ナミビア共和国
芝田 篤紀

キーワード：国立公園，地域住民，生業活動，地形，植生

対象とする問題の概要

アフリカにおける自然保護政策は、1980 年代に入り大きな変革期を迎えた。それは、手付かずの自然を護る「原生自然保護」から、地域住民主体で自然を護ろうとする「住民参加型保全」への転換である。この流れの中で、「住民参加型保全」の評価や地域住民への影響の調査が活発に試みられてきた。ナミビア共和国北東部に位置するブワブワタ (Bwabwata) 国立公園 (図 1) は、地域住民が国立公園の中央部で定住しているという特徴から注目され、前述の調査・研究も特に進んでいる。しかし、地域住民と国立公園の自然環境との関係について、定量的な調査・研究ははまだほとんど行われていない。特に、国立公園での生業活動と地形・植生の関係について、空間や景観に留意して解明した研究はこれまでになく、“「住民参加型保全」による自然保護”を議論するうえでこの点を究明する必要がある。

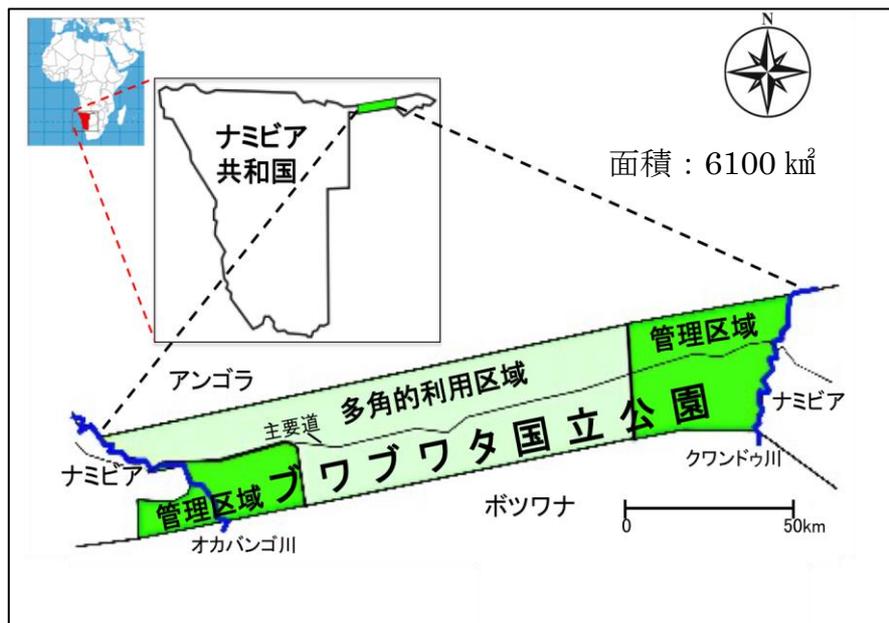


図 1. 調査地域概要図 (公園内は二つの区域に分かれており、住民は多角的利用区域で暮らしている。)

研究目的

本研究の目的は、ブワブワタ国立公園で行われる生業活動と地形・植生の関係を、空間や景観に着目した定量的な調査によって解明することである。

ブワブワタ国立公園で暮らす地域住民クエ（Khwe）によって行われている生業活動として、採集・伐採活動、農業、野焼きの“実態”を、住み込みによる参与観察や聞き取りなどから明らかにする。公園内の植生と地形については、コドラート法やライントランセクト法などの植生調査と地形測量からその“状態”を明らかにする。そして得られた調査結果から、地域住民クエの生業活動が国立公園の自然環境にどのような影響を与えているのかを考察する。また一方で、その生業活動が国立公園の自然管理としてどのような役割を担うのか検討する。

フィールドワークから得られた知見について

参与観察、聞き取りなどにより、国立公園のなかで行われる生業活動と周辺自然環境の関係が明らかになった。それは、採集・伐採活動が周辺植生に与える影響、周辺環境における野焼き（写真1）の意味、農地（写真2）の開墾位置と地形の関係である。また、空間や景観に着目した植生調査、地形測量などからは、公園内の自然環境の“状態”が明らかになった。それは、対象地域に特有の旧流路地帯の地形と植生の関係、国立公園内に設置された多角的利用区域と管理区域における植生構造の差異、人口規模と開村年が大きく違う村落における有用樹種の分布の偏りである。さらに、インタビュー調査の実施により、生活空間が国立公園になったことによる住民生活の変化や、地域住民による立ち入りが禁止された区域（管理区域）の設定によって生じた生業活動における葛藤（写真3）も確認された。

以上の調査結果から、国立公園制定にともなう区域の設定と、地域住民の生業である採集・伐採活動は、植生の空間的な差異を生みだしていることが推察できる。また、有用樹種の分布の偏りについても、採集・伐採活動や栽植の影響を受けていることが推察された。一方で、農業における農地の開墾位置から、旧流路地帯の自然条件に基づいて開墾や耕作を行っていることが考えられ、クエが伝統的に行ってきた野焼きについては、健全な植生を維持するといった自然管理につながっていることが示唆された。つまり、国立公園に暮らすクエの採集・伐採活動や農業、野焼きなどの生業活動は、周辺植生に大きな影響を及ぼし国立公園の景観を形成しているが、自然環境についての深い知識と認識に基づく生業活動は、国立公園の自然保護や管理の役割を担う一面もあることが考察された。

ブワブワタ国立公園では、手付かずの自然を護る「原生自然保護」という国立公園の理念とは相反する、地域住民クエの生業活動も含めた自然管理のかたちが見られた。



写真1. 野焼きの様子（2015年8月）



写真2. 公園内のトウモロコシ畑（2014年12月）



写真3. 村の女性たちが果実の採集のために集団で区域の境界を越えていく様子（2014年12月）

（写真は全て筆者撮影）

今後の展開・反省点

国立公園に制定されてからまだ10年未満の本地域においては、区域の設定や生業活動による植生への影響について、今後も継続的に調査を行い、その動態を検討する必要がある。また今後は、旧流路における地形・地質・土壌学的な調査を行うことで、それらと地域住民との関係をさらに深く分析することも必要である。野焼きについても定量的な調査・分析を進め、国立公園の自然環境に対しての具体的な影響を検討したい。本調査では、大型動物などによる植生への影響をほとんど明らかにできなかった。多種多様な動物が生息する国立公園の自然環境を解明するうえで、それらの影響は無視できない。今後の課題としたい。以上の調査・研究を遂行することで、国立公園の自然環境における地域住民の影響や役割がより鮮明となり、自然保護管理の研究に新たな視座をもたらすことができるであろう。